

# こころの言の葉

あなたに届けたい

平成16年度「こころの言の葉」コンクール作品集

鹿児島市教育委員会 編

## は じ め に

鹿児島市教育委員会教育長 橋元忠也

「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施された「こころの言の葉」コンクール。本年度、第二回目の作品集をお届けいたします。

昨年度の「こころの言の葉」コンクール、及び作品集には、各方面から大きな反響をいただきました。この作品集には、中学生の子から親へあてたメッセージと、親から中学生の子にあてたメッセージが数十編掲載されています。どの作品も、日頃は口に出せない素直な思いを綴ったもので、読む者の心を揺さぶるものばかりです。数多くの「言の葉」の中には、自分と同じ「こころ」のメッセージを見出せるものもあるのではないかと思います。

「こころの言の葉」コンクールには、直接口に出せない思いを一枚のはがきに託し、中学生の親と子の心の交流を図り、お互いの存在について考えを深めるという趣旨があります。この作品集を皆さんで御愛読いただき、自分の親について、子について、あらためて認識するとともに、これからの自分の在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、今回すばらしい「言の葉」を寄せていただいた四千七百十二人の皆さんに心から感謝の意を表します。

「こころの言の葉」の世界を十分に味わってください。

平成十七年一月

---

## 目次

感謝の言の葉・・・・・・・・・・中学生の子から親へ	三
慈愛の言の葉・・・・・・・・・・親から中学生の子へ	一七
明日への言の葉・・・・・・・・・・幸せを誓って、子へ、親へ	二七
あなたへの言の葉・・・・・・・・・・素直に伝えたい思い	三九
平成十六年度「こころの言の葉」コンクール入賞者一覧	四六
審査講評	四七

---

# 感謝の言の葉

—中学生の子から親へ—

# 母の手

私、お母さんの手が大好き。

太い指と、厚い手のひら。

今まで家事をがんばってきた手。

たくさんの人は、白くて、指が細い手がきれいっていうけれど、

私はお母さんの手が一番きれいだと思う。

私やお姉ちゃんたちのおむつをその手でかえたんだよね。

よごれたよだれかけも洗ってくれた。ごはんもつくってくれた。

私たちのことをよく知ってるお母さんの手。

その手が本当に好き。

お母さんの手を握ると、お母さんの愛情が伝わってきて、とても温かい。

だから、だから、ずっと握っていたい。

今まで、その手で、お母さんの愛情で、お母さんの全てで私をここまで育ててくれてありがとう。

迷惑もたくさんかけると思うけれど、そのときはたくさんおこっってください。

そして、これからもよろしく。

お母さんの子どもで本当に、本当によかった。



## 父の思いやり

家ではあまりしゃべらない父であるけれども、雨の日のこと、電話もしていないのに、下駄箱にたてかけてあった「傘」。

家ではしゃべらない父であるけれども、僕のことを見ていてくれる父へ

「男一人で僕を育ててくれて、ありがとう。今僕はあなたの息子でよかったですと思います。いつか、あなたに、おまえの父親でよかったですと言わせたいです。」



## 天国から見守っていてくれる

悲しくて辛くてもがんばって笑っている。自分だってきついのに子どものことをまず一番に考えてくれる。仕事も家庭も完璧にこなす。それが私のお母さん。

お母さん、あんまり無理しないでね。悲しい時泣いてもいいんだよ。仕事も家庭のことでも少しくらい手を抜いてもいいから。無理だけはないでね。お父さんが天国に行ってしまったときも辛かったね。さみしかったね。私はお父さんがいなくて寂しいけど、不幸だなんて思ったことないよ。お父さんは天国から、ずっと見守ってくれているから。私も、もっと心も体も成長して、お母さんを守ってあげるからね。いつもありがとう。これからもよろしくね。

# 母への「想い」

ママへ

お元気ですか、というのはいさおかしいですね。あなたが亡くなって、もう三年が経ちます。ずっと言えなかったけれど、私はいつでも世界で一番あなたが大好きで大切でした。あなたが亡くなる前にした、たくさんの約束は、もう今は叶えることができせん。

でも、私にとって、あなたはこれから先いつまでも、たった一人の愛しい母であり、そして友人であります。いつだって、私の傍にいて、そして時には優しい言葉をくれ、時には叱ってくれたあなた。そんなあなたを、私はずっと忘れません。ともに過ごした日々が遠く色あせてしまっても、それでもあなたが私を愛してくれ、また私もあなたのことを愛したという「想い」は強まっていくのです。今年高校入試もあり、小学生の時の私が出来なかった、あなたをめぐらさうと喜ばせるということを実現したいと思っています。

言葉を交わさなくても、あなたと私はずっと世界一仲のいい親子で、心はつながっています。

これから、どうか見守っていてください。

…大好きだよ、ママ



# 不思議な力

お母さん、

悲しくて頭を上げられない日もあった。

苦しくて息もできない日もあった。

辛くって言葉にならない日もあった。

あの日、お母さんが私を強く抱きしめて、たった一言、

「いっしょに頑張ろう」 そう言った。

そう言った声が小さく震えてた。

私の頬にお母さんの涙が流れて、私の涙とひとつになった。

そのときから不思議な力が湧いてきて、

少し勇気が出てきたのかな。

それから私、少し強くなったのかな。

いつも優しく微笑んでやさしく頭を撫でて、誉めてくれ、いつもいっしょに

頑張ってきたんだよね。お母さんいつも心配かけてごめんなさい。

私お母さんの子どもで幸せだと思っている。

憎まれ口を言うときもあるけれど、口答えをするときもあるけれど、

心の中ではいつも思ってる。「ありがとう」 って。



## 愛し続けます…

母さん、自分が小学校四年生の頃お父さんが死んで、母さんと姉さん、そして自分の三人で暮らしていくとなった時、本当に家は終わってしま  
うんじゃないかと不安になりました。その時母さんは、葬儀の時に「私  
は命を捨てても絶対に子どもたちを愛し続けます。」といってくれま  
した。僕は目からガラスの玉がこぼれました。でも、今度は自分が姉と  
母を愛し続けたいと思います。

お母さん ありがとう

## 親の力

小学校二年、三年のとき、友達のさいふを拾って届けたら、中身がないとかいって、どろぼう扱いされたことがあったね。そのとき、ぼくは、いいことをしたと思っていたのに、どろぼう扱いされてとても悲しくて、くやしかった。その日は、家に帰って泣いたね。そのとき、お母さんは、なぐさめてくれた。ぼくはとてもうれしかった。お母さんは、その後学校に、電話をしてくれました。お父さんは、ずっとなぐさめてくれた。次の日勇気を出して学校へ行けた。そのときぼくは、親の力ってすごいなと思った。父や母の、なぐさめの言葉は、今でも心に残っている。あの日のことは、とても感謝している。ありがとう。



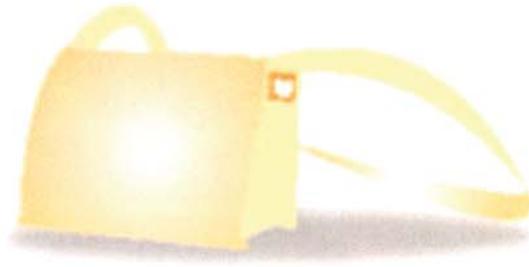


## 幸せな親子

「ああーなぜここに幸せな男がいるかな」と、最近父の口ぐせになりました。今ものすごく仕事などでいそがしい父。なに一つ良いことないのに、なぜ。でも、その理由を教えてくれたのは父でした。父は、家族みんなを集め、こう言いました。

「おれは、お前らに出会えて本当に幸せだ」と言い泣き始めました。ぼくもなぜか、泣き顔になってしまいました。父の顔を見ると、さみしくなったのです。

「幸せなのは こっちだよ…お父さん。おれ今、本当に幸せだよ…」



## ため息を笑顔に

お父さん、お母さん、私や弟のために働いてくれてありがとう。一生懸命働いて疲れているのは分かります。だけど、いつもいつもため息ばかりで聞いているこっちまで疲れます。毎日毎日無表情で帰ってきて「つかれた」とその口が言うたびに、私や弟はいなければいいのかもしれないと思わずにはいられません。「笑う門には福来たる」という言葉もあるのだから毎日とは言いません、せめてため息だけでも笑顔にしてください。いつか私が大人になつて働いて二人に楽をさせられるようになるまで、しばらくまだお世話になります。

## きつと笑顔に

「ありがとう」

この言葉って不思議だよね。

言いたい時に言えないんだもん。

お母さんありがとう

体が弱いお母さんは、いつも無理して頑張ってるよね。

朝から晩まで私たち家族の世話で、自分の時間を犠牲にしてる。

私知ってるよ。

いつも強がってるお母さんだけど、台所で一人泣いてるの。

それを見て私、自分の部屋で泣いてるよ。

私が辛い時、そばにお母さんがいる。

お母さんが辛い時、そばに私がついているから。

一人で悩まないで、二人で悩もう。

一人で泣かないで、二人で泣こう。

きつと、笑顔に変わるから。





## 笑顔の「ただいま」

お父さん、なぜ私をひきとってくれたの。お父さんは、男だから、掃除や食事大変になるのわかっているのに。だけどそんなお父さんでよかった。仕事から帰ってくるとき、本当は疲れているのに、笑顔で「ただいま」と言ってくれる。だからお父さんの笑顔に負けない笑顔で「お帰り」と答える。だけどそんなのを見ると少し辛い。おとうさん、いつも笑顔で「ただいま」ありがとう。これからも笑顔の「ただいま」を見せてください。

## エール

お母さん、いつも僕にエールを送ってくれてありがとう。お母さんのエール、しっかり僕の胸に届いているよ。

テストや体育大会、中体連当日の朝、いつもお母さんはエールを送ってくれる。その「頑張れ」の一言だけで、僕の心は少し軽くなる。

僕的心にかかる霧をきりひらいてくれる身近な存在。僕心のオアシス。お母さん、いつも感謝しているよ。

でも、いつまでたっても、この感謝の気持ちを言葉に表せない。「ありがとう」って言えない。でも、いつか言ってみせるよ。今までの感謝の気持ちを込めて、「ありがとう」って言葉を伝えるからね。

## 心のエール

独りは別に嫌いじゃない  
親戚だって助けてくれる  
幼いころからそうだった  
めぐまれない外国の人のため  
奉仕の心で外国へ一人行く  
僕の母  
理解はあるけど認めない  
幼いころは泣いていた  
今は涙が変わり文句になる  
顔も知らない人のために犠牲になった  
そんなことも思っていた  
だけどやっぱり分かってる  
どんなに文句を言っても  
心の中で応援している  
だからがんばれ  
おかあさん

## 正直な気持ち

親なんてどうでもいいって顔をする  
でも本当は ずっとかまってるほしい  
そう思う  
不登校になった時  
無口になって  
あれでいたのに  
それでも 親は見捨てなかった  
当時はそれが当然だった  
でも今は  
いつでも見捨てていい状態だったと分かる  
それに気づき始めた時  
涙が出そうになった  
だけど流さなかった  
両親にばれてしまうから  
本当は言いたい  
「ありがとう」という言葉  
本当に心が強くなったなら  
「ありがとう」と言ってみよう

# 慈愛の言の葉

— 親から中学生の子へ —



# 大切なあなたへ

独りで 背負わないで その荷物

頼ってください 父の腕

独りで 抱えないで その悩み

飛び込んでください 母の胸

いつでも 空けてあります

あなたの 指定席

だって あなたは わたしたちの

宝物だから…

父と母より

# 人生は楽しいぞ

おい、最近髪型を気にするようになったな。感心感心。男は身だしなみが大切だ。背もだいぶ高くなってきた。お母さんを抜いたそ  
うじゃないか。お父さんにはもうちよつとだな。いつも三人の弟や  
妹の面倒を見てくれてありがとう。あらたまつては言いにくいが、  
お父さんもお母さんもそう思っている。お母さんは大切にしてやれ。最近口答  
えが多くなってきたな。母親だから口うるさいのはしょうがない。また始まつ  
たくらいに思っている。お前のことを心配してのことだ。(男は口ではかなわ  
ん) まあ、あまりカリカリせず、ゆつくりやれ。人生は長いぞ。よそ見もし  
ろ。楽しいぞ。ぼちぼちがんばれ。じゃあな。

父より



## 自分の気持ちをぶつけてごらん

中学生になり、心身共に頼もしくなったあなたへ、伝えたいことがあります。私たちが離婚して三年余りたちますが、そのことで何も話さず今まで過ごしてきた事、本当にごめんなさい。

反抗もせず、一生懸命に勉強や部活動に打ち込む姿を見ていると、どこか無理をしているのではないだろうかと心配です。何でもいいから、私にぶつかって来てください。父親の分まで頑張る気持ちで、いつでも待っています。頼りにならないかもしれませんが、あなたのですべてを受け止めますから、自分の気持ちを素直にぶつけてください。たまにはハメをはずす事も大事だと母さんは思います。



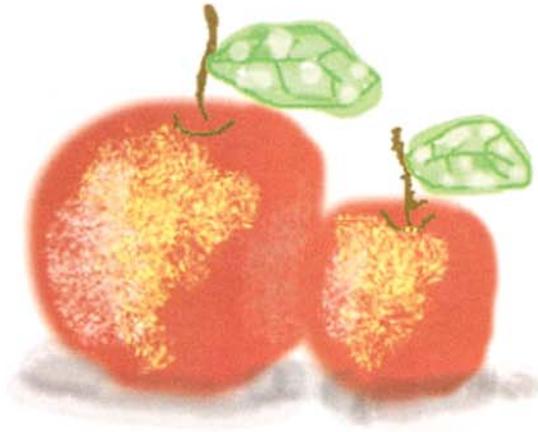


## おまじない

やさしく、やさしくなあれ。おまじない。雪もちらつく、まっ白な朝、初めてあなたを抱きました。あつたかくて、うれしくて、絶対に守ってあげると決めたんです。ウザイと睨まれても、ヘツチャラです。あなただから。友達のこと、話すときのあなた、楽しそう。ホツとします。人を傷つけないで、あなたも傷つきません。皆だってあなたと同じです。変わらないよ。相手の心の中見てね、いろんな事わかるよ。やさしくなれるよ。

まあるく、まあるくなあれ。

とんがってるあなたへ



## 私に似ている

「失敗や誤ちを恐れず、何でも言っていていいんだよ」と息子に言いながら考える。

あーこれは、学生の頃、私がとっても苦手だったこと。今もとても苦手なこと。息子に言いながら、本当は、自分自身にも言っている。自分ができなかつたことを、息子にはやってほしいと思ってしまう。私と同じことを苦手とする私に似ている息子なのに…。

やっぱり親って勝手です。

それでも、私を越えてほしいと願いつつ、今日も言ってしまうのです。

## 共に成長する

大きくなったなあ。横に立ち並ぶ、自分とあまり、身長の変わらない娘を見て思う。十三年という時は本当に大きく長い年月だったと改めて感じる。もしあなたがいなかったら、今の私もいない。

あなたの成長とともに私も変わった。そう実感する。娘と味わってきた喜びや悲しみは、私自身の、人への思いやり、優しさ、また、心配り、感謝という気持ちの大切さを改めて感じさせてくれた。また母は強しの言葉通り、精神的にも強くなったのかも知れない。

そう、あなたを育てながら、私自身が成長させてもらったような気がする。まだまだ人間として足りない母親です。けれど、ここまできになりました。あなたのお陰で。ありがとう。

これからも一緒に泣いたり笑ったりしようね。これからもあなたとの生活がますます楽しみです。



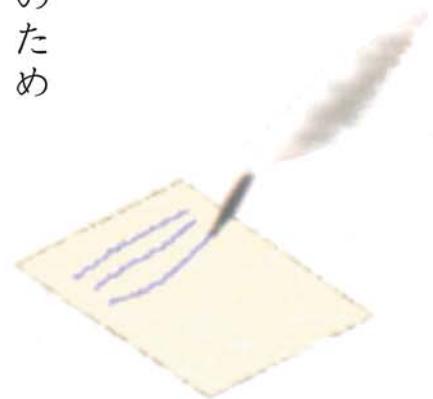
## 成績は悪いけど…

とても嬉しい贈り物があります。

それは時々届けられる担任の先生からのお手紙。あなたが学校で誰かのためにできた小さな親切を知らせてくれるものです。ごく普通の誰にでもできるような事なのですが、そんな普通の行為ができるということに、私は大きな喜びを感じています。そして知らせて下さる先生に感謝しています。「成績は悪いけど、性格は悪くなりたくない」と言ったあなたの言葉がうれしいです。

これからも周りの人に思いを配ることのできる人でいてね。

あなたのやさしさが一番の宝物だよ。



# 君のペースでいいんだよ

大切な何かを 伝えるために  
もう急ぐのは やめにしよう  
ゆっくりで いいんだよ

君のペースでいいんだよ  
いつか必ず 花開く

君の力を信じている

どんな運命も受け止めよう  
つまづいたって いいんだよ  
それがいつか糧になる

君の心の栄養に

きらきらと輝やける原石を持った君だから  
目の前の壁から逃げないで

君ならきつと乗り越えられる

それでももつらくなった時

ちよつと立ち止まって横を見て

一人では決してないことに

君は必ず気付くから

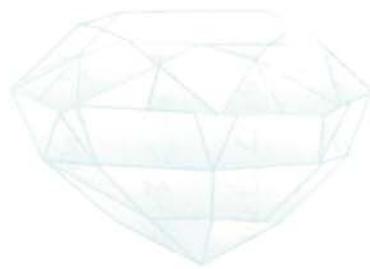
ゆっくりでいいんだよ

君のペースでいいんだよ

急がなくていいんだよ

君はたくさんの輝きを秘めた

たからの子どもなのだから



## 家族のぬくもり



お母さんが仕事から帰って来ると、あなたがしかけたご飯がたきあがって  
いご飯のにおいがする。疲れたのがどっかに飛んでいく。二人で食べる夕飯は  
一日の疲労も飛んでいく。今では一緒に入ることはないけれど、  
あなたがお風呂からあがると、石鹸のにおいが部屋中に広がり、  
幸せだと思う。夕飯の片付けが済み、テレビを見て同じ場面で  
同時に二人で大笑い、楽しいね。お母さんがお風呂からあがると  
あなたの寝顔、じっと見てる。私はとても幸せ、いやされます。  
これからも二人でスクラム組んで楽しく行こう。

# 明日への言の葉

— 幸せを誓って、子へ、親へ —

## 出会いに感謝

素直になれない親、素直になれない子。

本当はとても心配で一番に子どものことを思っているのに、つい目

先のことばかりに気をとられている。黙ってほっとけない…

しかってしまったあとには後悔ばかり…

子供を信用しているのに出てくる言葉は反対のことばかり…

親って難しい…

「勝手にしなさい！」と言って勝手にされても困るし、

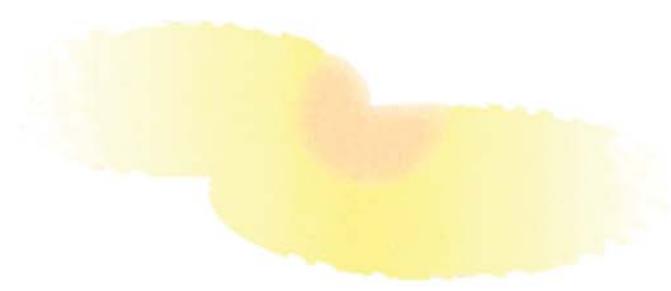
「もう知らない！」と言って、本当は何でも知りたいたいし、

親にとって子どもってずーっとずーっと大切にしたい存在。

大好きで大好きでしようがない。

親子で出会えたことに感謝しているんだよ。





「ごめんなさい」

家をとびだした  
母に怒られたからだ  
歩きながら  
気がおさまらず  
水たまりをけた  
僕の足もとの鏡にうつった  
空がきれいだった

ふと気がつけば  
武道館でテコンドーをしている  
こどもたちの汗でぬれたTシャツが言った  
「もう帰ろうよ」  
心の中でなにかが変わった  
僕は走った。  
また、雨が降りだした  
水滴がメガネにふりかかって  
透きとおって  
夕焼けが輝いて見えた。

家に帰り  
ただいまのかわりにでた言葉は  
「ごめんなさい」

## 母からの手紙



お母さん、いつも本当にありがとう。感謝の気持ちでいっぱいです。どんな時も、私の気持ちをわかってくれるよね。私の悲しみや寂しさ、怒りとか全部受け止めてくれる。私はお母さんに思っていることを話すと、どんな痛みも痛くなくなるから不思議だよ。時にはすごく厳しく私に怒ってくれるよね。そんなお母さんに意地をはって反抗している私。今思うとすごく恥ずかしいです。私のことを思ってくれているのに……。ごめんなさい。小学校の時、私がおこって天国のお父さんに「誰もわかってくれない」という手紙を書いたことがあったよ。どうすることもできないからそのままにしていたら、お母さんの手紙があつてびっくりして……。「お母さんが厳しくしているのは、強く生きてほしいから。お父さんの分もあなたのことを思っているのよ。」と書いてた。うれしくて、あんな手紙を書いたことを後悔しました。これからも迷惑ばかりかけてしまうと思うけど、よろしくお願いします。大好きだよ、お母さん。

## 娘へ

心の優しい子になあれ 心の強い子になあれ

人の痛みの分かる子になあれ 自分を大切ににする子になあれ

おはようが毎朝言える子になあれ

「ありがとう」がきちんと言える子になあれ

いじめない子になあれ いじめられない子になあれ

友達を助けるのをためらわない子になあれ

夢を持つことをあきらめない子になあれ

父に向かって「あっち行ってよ」って言わない子になあれ

それでも父はいつもおまえのそばにいるぞ

だから娘よ

父の魔法で『いい子になあれ』



# 神様が授けてくださった

「お母さん、俺って顔はお父さん似なのに、性格はお母さん似だよね」ホント  
：コワイくらい似ている：今言おうとした事、テレビを見ていて思った事、カ  
ラオケ好きな事、あまりクヨクヨ考えない事：などなど。これが「親子」って  
ことなのよね。

でもね：お母さん昔は結構クヨクヨ考えて、悩む方だったんだよ。お兄ちゃ  
んが障害があるとわかった時、泣いて、苦しんで、自分を責めて最悪のことを  
考えたりして：。そんな時神様があなたを授けて下さったの。「新し  
い生命が宿っている。強く生きなさい。」と諭すように：。だからあ  
なたは私とお兄ちゃんの命の恩人です。心から感謝です。これから  
もいっぱい笑って泣いて歌ってみんなで仲良く暮らそうね。ヨロシ  
ク。

追伸 これまで同様、足のリンパマッサージ ヨロシク。効くのよ  
コレがまた：。 お願いします。



## 前向きに生きる

あなたの様子がおかしいと気づいたのは小四の時。「死ね」「自殺しろ」と言われ続け、あなたは苦しんでましたね。折りしも同時多発テロの後、TVでは連日のように死者の数をあげていました。そのくらいの言葉で傷つくような弱い子に育てたお母さんが一番悪いとせめられ、母さんもまた苦しみました。そんな時、保健室の先生がかけて下さった言葉。「お母さんの子育てはまちがってませんよ。ちゃんと命の大切さのわかる子に育ててるじゃないの。自信を持ちなさい。」という言葉。言葉って素晴らしいね。人の心を傷つけてしまうこともあるけれど、こうして勇気づけてもくれる。自分の存在を認められたことで、母さんには小さな自信が生まれました。自分を取り戻した母さんは、やっとあなたをまるごと受けとめられるようになり、あなたは安心したかのように、前へと歩き始めました。母さん、うれしかった。

切迫流産に切迫早産、へその緒が首にまきついたりであなたがお腹の中にいる時、母さんはあなたの命の事ばかり考えてました。あなたは生まれながらに命の大切さのわかる子なのかもしれない。テロから三年。人々は命の大切さをあらためて考え、母さんは心身共に強くなったあなたをたのしく思いながらも、あの頃の苦しい記憶に胸が痛みます。これからも命の大切さを忘れないで、前向きに生きて。大丈夫。思いつきりはばたいてごらん。母さん、ちゃんと見てるから。



## 幸せを誰かに与えたい

今、いつしよに暮らしているじいちゃん、ばあちゃん、そして、私のたった一人のお父さんへ。私が生まれてから十五年が過ぎました。長いのか短いのか、私にはまだよくわかりません。

それでも、じいちゃんたちがいてくれたから、そのお陰で、わたしは今こうして生きて、ここにいます。

「じいちゃんは、孫の中でおまえが一番かわいいんだ。」と私はばあちゃんに教えられました。その言葉がとてもうれしくて、温かくて、私は部屋に戻ったとき、泣いたことがあります。孫は十二人もいるのに……と。

今までも、これからも迷惑をかけてばかりだと思えます。けれど、時には厳しく叱りながらも、見守っていてください。お父さんも、今と一緒に暮らすことが出来なくて、時々しか会うことが出来ないけれど、それでも私は、お父さんとたまに遊びに行ったり出来るのが嬉しいです。この前は「お母さんが欲しいか。」と聞かれて少し驚きました。でも、私は、母親はいなくても、今とても幸せです。その幸せを、自分も誰かに与えることが出来るようにがんばっていきます。だから、お父さんも体に気をつけて頑張ってください。今までもありがとう。そしてこれからもよろしく願います。





## 育児は「育自」

「普通」ということを、意識したり、深く考えたりすることはあまりありませんでした。あなたが生まれるまでは「普通ではないから」と言われ、「普通って何」と自問自答する日々でしたが、いつも屈託のないあなたの笑顔に励まされました。

それまでは、全ての事においてどこかであたりまえとっていたような気がします。「育児」は「育自」でもあると言われていますが、あなたのおかげでああなたの成長と共に母も少しは成長できたかなと思っています。ありがとうございます。

これからも、母は母にできることを一生懸命がんばります。あなたも、今、あなたにできることを一生懸命がんばってほしいと願っています。母はいつでもあなたのことを応援しています。

## 素直にごめん

私が、人の靴を隠して先生におこられた日。

それは、お母さんの涙を初めてみた日。

ごめんなさい。



いつも「オレの勝手だろ。」と言ってるけど。

オレのおこした問題を最後まで責任とるの

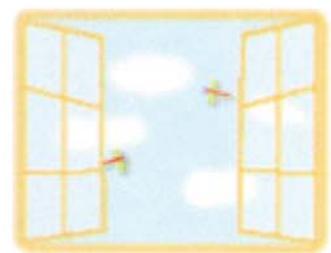
は親なんだよな。ごめん

## もう我慢しないで

「心配事はない？お母さんに言いたいことはない？不満はない。」と立て続けに聞く私に、「別に、何にもないよ」と答えるあなた。あなたが幼稚園の頃でした。すぐ上のお兄ちゃんが、ギャングエイジに入り、やんちゃでいろいろ問題を起こすので、目が離せなくなり、お兄ちゃんにかかりつきりにな

ってしまいましたね。それであなたの方を向くことが少なくなったせいかな、あなたは幼稚園から帰って来ると、何も言わずにずっと私の膝の上にすわったり、腕枕をして昼寝をしたり…。あなたは寂しかったのよね。そんなあなたを抱きしめながらお母さんはあなたに、「今、お兄ちゃん的心が大変なの、お兄ちゃん的心がちゃんとなるように頑張るから、今はちよつと我慢してね。お兄ちゃんが、元気に戻ったら、あなたのこといっぱい上げてあげるからね。」と言ったら「うん、わかった。頑張ってるね。」と言ってくれたあなた。あの頃からずーと我慢してきたあなた。お兄ちゃんはあるあなたのお陰で、今は優しい思いやりのお兄ちゃんに戻りました。ありがとう。

もう我慢しないでいいからね。あなたは今、思春期・反抗期の時ですもの。あなたの心の中は心配事、不安、不満等・いっぱいあるでしょう。なんでも思いきりお母さんにぶつけていいからね。体がお母さんよりずっと大きくなったあなたただけど、大丈夫、お母さんは両手を広げてあなたを、心をぶつけて来る日を楽しみに待っています。



## 父のまなざし

娘よ、人には長所も短所もある。おまえの場合、早寝早起きが苦手だね。父はおまえが成長するにつれ解消していくものと期待しているがなかなかだね。辛くてもがんばって欲しい。

しかし、お父さんはうれしく思ったことがある。それは小学校に上がったとき、障害を持つ友達に声をかけたこと。その優しさを長く持ち続けて欲しいと願っていた。

六年生になったとき、夜遅くまでスカートにアイロンをかけていたね。どうやら自分のではないらしい。あれは友達のスカートだったのだね。お父さんは心の中で誇りに思う。その厚意にうれしかった。



あなたへの言の葉

—素直に伝えたい思い—

## 誇らしい中学生

中学生になったんだね。なんだろう、この誇らしいようなまぶしいような気持ち。

あなたを心から愛してくれていたおじいちゃん、中学校の先生だったんだよ。何だかお母さん、小さいときいつも中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが遊びに来ていたから、早く自分も中学生になりたかったのを覚えている。算数じゃなくて数学なんて言う言葉もとっても新鮮だったりして。おじいちゃん、あなたの姿を見たら、うんうんと嬉しそうになつてくれただろうね。

何でだろう、中学生だった頃からの記憶は、きのうのここのように新鮮なんだよ。そういう多感な時代にあなたも突入したのかと思うと、何だか嬉しくなる。いっぱい笑っておいで。いっぱいおこっぺおいで。いっぱい泣いておいで。おとうさんとおかあさんに、いっぱいぶつかっておいで。しっかり受け止めるから。中学時代を精一杯過ごしてね。

## 朝の靴下

あなたにいつまでもかまい過ぎてごめんなさい。朝の支度の時、靴下をはかせる事は嫌ですか。お母さんが小さい頃、学校まで六キロの道のりを歩いていました。冬の寒い朝、おばあちゃんはふびんに思ったのか、こたつで温めた靴下を優しくはかせてくれました。冷たくかじかんだ足は心といっしょにポカポカになり、頑張ることができました。時間のない、朝の慌ただしさの中で、毎日しっかりと母の愛を感じていました。

少しずつ大人になっていくあなたは言葉少なになり、人にかまわれることを嫌うようになってきました。でもこの手の温もりだけは忘れないでください。この先あなたが母になった時、ふと思いで欲しいのです。

## 素直な気持ち

お父さんは病気で仕事をするのがあまり出来ないから、お母さんが一生懸命働いているのは私も知っている。でも今のお母さんは私の本当の母じゃないから、素直に「ありがとう」なんて言ったことがない。今でも七年ぐらい一緒にいるけど、お母さんなんて言ったことがない。いつも「おねえちゃん」って呼んでいます。

嘘をついたりしてすっごくおこられたりしたら、自然に本当のお母さんのことを思い出したりして、一緒に住みたいと思ったりもする。でもここ一年ぐらいで、けんかしても素直に自分の気持ちを本当の母みたいに言ったり出来るようになった。いつ自分が今のお母さんに素直に「ありがとう」って言えるかわかんない。それまで待つて欲しいです。

## 料理を教えて

母さん、自分がどんなに仕事で疲れていても、風邪をひいて熱を出していても、妹や弟にはもちろん、私にすら「だるい、疲れた」なんて言わなかったよね。

そんな母さんのこと、私はすごいって思うよ。でもね、少しぐらい弱音を吐いて欲しいな。私は料理も出来ないし、母さんの仕事の手伝いもできないけど、母さんのぐちを聞くぐらいはできるし、他にも軽い家事ぐらいはできるから、私のことをもつと使ってね。

最後に「これからは、母さんが少しでも楽できるよう、料理を作れるようになるから、台所に呼んで、料理を教えてくださいな。それから今までありがとう。これからもよろしくおねがいます。」

## 自信を持って

「どうせ『私の事、産まなきゃよかった。』  
と思っているんでしょう。」

そんな悲しいこと、言わないでください。

一度も思ったことはないですよ。

「私ってどうしてこんなダメな子なんだろう」

そんな事はないから、もっと自信を持って。

長女に生まれたあなただから、結構がまんしていませんか。いろいろと無理していませんか。もっと甘えてきてもいいですよ。

あなたがいて家族なんだから。

## 言葉の贈り物

「やらずに後悔するより、やって後悔する方がいい」

これは、私が十歳の誕生日の日に、母から贈られた言葉です。

私には将来の夢があります。「矯正歯科医」です。あの言葉を母から贈ってもらってから今日でまる四年になりますが、未だ夢をあきらめていません。

これからも、この「やらずに後悔するよりも、やって後悔する方がいい」という言葉を胸に秘めて頑張りたいです。そして何よりも、この言葉を贈ってくれた母に、すごく感謝しています。

## カギっ子

私は小学校の頃、六年間ずっとカギっ子だったね。低学年の頃は「お姉ちゃんだから」と言われるのがうれしくて、カギを持って学校に行くのはうれしかったんだよ。

でも高学年になるにつれて、家に帰るとお母さんがいる友達がすごくうらやましかった。だから、習い事のない日は学校で暗くなるまで友達と遊んで、「遅い」っておこられても、カギで開けないドアを開けるのがうれしかったよ。

今はもう中学校二年生で、部活で遅くなるから毎日小学校の頃の夢を実現させているよ。

いつもわがまま言ってごめんね。

でも本当はすごく感謝しています。ありがとう。

## 父の背中

私は生まれたときからずっと父親がいなかった。ずっと母と生きてきた。でも、すぐに母は働きに出て行ってしまふ。そのころ、町などで見かける母親と父親と一緒にいる子供がともうらやましかった。

私のカレンダーの中に父の日は存在しない。その日は、マジックでぐちゃぐちゃにぬりつぶしている。

昔、母は教えてくれた。

「父は死んでしまった。」と…。

今の名字は母の方の名字である。父の名字を名乗ったのは、生まれたときぐらいだろう。

私は父の顔を知らない。たった一回だけ夢に出てきた。父は大きく広い背中を あっちに向けたまま、こっちを向こうと しなかった。

やはり、私の心には父が存在しないの だろう。

でも、やっぱり顔は見てみたい。そう 思うのはやはり親子だからだと思う。

## 前進

楽しく嬉しい事も

悲しく辛い事も

今のあなたの状況はすぐに過去の思い出

話となるのだから

常に自分を信じて行きなさい

夢を信じて行きなさい

あなたの事をいつも見守っているから

心配せずに

あなたは前に進んでいくのだよ

## 歴史の登場人物

時代に歴史があるように、あなたが生まれその日から、あなたの歴史が始まっています。

今まで出会った全ての人が、これから出会う全ての人が「あなたの歴史の登場人物」です。

あなたの好き嫌いにかかわらず、全ての方が影響を与えて今のあなたがいます。

一人かけても今のあなたはいません。

そしてあなたもまた、誰かに影響を与える「登場人物」です。自分同様に人を出会いを大切にできる人になってくれるよう願い見守っています。

## 母を目標に

いつも母は仕事から帰ってきて私たちの夕食を作ってくれる。いつも私たちの洗濯をしてくれる。

私たちのためにいつも一生懸命な母。そんな母は、保育師という職業についています。

大変そうだけど子どもたちといるとき母の顔はともうれしそうに楽しそうに、幸せそうな顔をしています。

私の今の将来の夢は母と同じ、保育師という仕事です。

いつか、私も母のような保育師になりたいです。

いつもいろいろなことをしてくれてありがとう。

これからもがんばってね。

そして明日からもよろしくお願ひします。

## この命を大切に

私が成長するにつれ、けんかの回数が増えてきたよね。本当は全然思ってもいないことを口に出しちゃったりしました。

「大嫌い」と言ってしまったときのお母さんの悲しそうな顔がいまでも忘れられません。

でも本当はいつも心の中で感謝しているんだよ。

いつも仕事をがんばってくれているお父さん。体は悪くなってきたのにお酒とたばこをやめられないよね。単身赴任をしているお父さんの体が心配で仕方ないんだよ。

私が悪いことをしても見放さないで、いつも受け止めてくれるお父さん、お母さん。

いつもははずかしくて言えないけれど、大好きだよ。そしてありがとう。

お父さんとお母さんにももらったこの命を大切にするよ。

# 平成16年度「こころの言の葉」コンクール入賞者

## 大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
嶋 崎 衣 利 子	丸 山 裕 子

## 準 大 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
増 田 ゆ り え	山 口 茂 子
佐 藤 剛	江 藤 公 彦

## 優 秀 賞

中 学 生 の 部	親 の 部
森 篤 孝	撰 悦 子
岩 元 寛 男	加 治 屋 里 恵
上 原 克 樹	宮 原 裕 子
田 尻 麻 美 子	楠 原 美 保
北 原 亜 紀	瀧 利 恵 子
徳 永 麻 也	森 永 由 紀 子
橋 元 太 始	神 園 ゆ かり

## 入 選

中 学 生 の 部	親 の 部
松 尾 舞	堀 田 由 美 子
寺 辻 マ ミ	岡 積 み どり
瀬 戸 宏 明	清 家 裕 子
井 口 敬 太	増 永 慎 司
西 田 理 緒	向 井 久 宗
林 菜 津 美	前 村 久 子
内 村 萌	上 四 元 真 美
古 江 老 成	満 永 真 由 美
川 崎 麻 衣	井 本 多 木 子
下 村 彩 乃	要 かつ み

応募総数:4,712点

# 審査講評

## 審査委員長

千々岩弘一先生

昨年度の作品集が、家庭で話題になったと聞いた。この企画の最大のねらいである生徒と保護者とのコミュニケーションの活性化が実現されたことを意味する一例である。そのような動きを形にするかのように、コンクール二年目の今年に応募作品数が千四百点ほど増え、五千点弱の応募があった。この試みの意義を理解し、賛同してくださる方が増えたことは、本当にありがたいことである。

今年の生徒の作品には、保護者への感謝・批判、自己反省、家族のありがたさの実感などが表現されていた。保護者の作品には、あふれる愛情が真摯な言葉や軽妙な語り口などで綴られていた。作品の一つ一つに琴線を揺さぶられ、得難い感動を与えてもらった。

本企画を通して、生徒と保護者とが互いをこれまで以上にかけがえのない存在として認識し、自らが「関係的存在」であることに改めて気づき、より親密な「関係」を創造して頂ければ幸いです。

鹿児島国際大学教授

遠矢仁司先生

四千通を超える応募に大変なうれしさを感じました。それぞれの思いが、いろいろな表情で語られた一つ一つの作品に目を通して、切なくなったり、安心したり、ほのぼのさを感じたりの連続でした。

慈愛に満ちた保護者たちの言の葉。普段の反抗をわびながら、親への思いを綴る子供たちの言の葉。思いをなかなか表現できずに、ひよっとしたら朝まで探した続けた言の葉。今言わなければ一生伝えることができないかもしれない言の葉。親子の情景が浮かび上がってくるように、どれもこれもに胸を熱くさせられました。

幸福にはさまざまな顔がありますが、実は子供たちは、今の幸せに気付いているのだと思います。親子の対話の少なさが指摘される昨今ですが、本コンクールに寄せられた作品を読むと、なかなかどうして絆はしっかりと繋がっていると確信できました。

次代を担う子供たちが、未来へ希望を持って生きることができるよう、親としての自覚をも促させられた審査となりました。応募してくださった皆さん、本当にありがとうございます。

市PTA連合会会長

大迫みちよ先生

人間誰しも自分への慈愛のこもった言葉を常に心から願っているものです。迷いつつ、悩みつつ歩む人生において、自分を愛してくれる人、育ててくれる人、見守ってくれる人の一言がどれほど日々の生き方に勇気と感動を与えるか、計りしれないものがあります。

今回もまた、多くの応募作品の一つ一つに、親の立場から、子どもの立場からの「こころの言の葉」の琴線に触れ、親子の情愛に幾度となく目頭が熱くなるほどの作品に出会い、強い親子の絆を感じました。

親は子どもの成長に夢を持ち、夢を追い、共に喜び、悩み、愛しいと思う親の言の葉。

中学生は本当の自分をありのままに文字に託し、感謝の気持ち、甘えや寂しさを綴り、心の拠り所を求める言の葉。

家庭の役割・家族の在り方が問われている今日、子どもたちの心が親から「浮き草」のように遊離することなく、正面から向き合い、親子の心の交流に、この「言の葉」メッセージをそれぞれに試みることで、親子の心を動かし、「夢と生きる力」を与えることでしょうか。

市地域相談員

## 岩松マミ先生

親子って何だろう。家族って何だろう。子どもたち親たちの思いがあふれる応募作品を読みながら考えさせられました。

その一言が素直に伝えられたら…、でも言えない。もどかしくて切なくて。一番近いのに遠い存在だったりする。普段、親だから、子だから、お互い理解し合っているのは当然と思ってしまうのだけど、みんな心の奥では言葉や態度で愛情を確認したいという気持ちがあることが作品からひしひしと伝わってきました。

親の作品は思春期の子どもたちとぶつかりあいながらも「いつまでも見守っているよ」と一様に寛容と暖かさにあふれていました。一方、豊かな時代に生まれ不自由なく暮らしていると思われがちな子どもたちですが、作品を通して実は複雑な社会状況の中で、人間関係、受験などに耐えて生きていることを痛感させられました。一番印象深かったのは、自分ももやもやとした苦しさの中にいながら、「つらい時は私を頼って」などと、生きるつらさを親と分かち合っているという姿勢でした。成長する子どもたちを実感することができました。

人を思う心の美しさがあふれたメッセージに、人間ていいなど勇気がわいてきます。そして子どもたちからは「(大人として)その生き方で本当にいいの」と疑問も突きつけられたような気がしました。

南日本新聞社編集部次長

## 山口光敏先生

感謝する言の葉ひとつえも言へぬ子はせつせつと筆にしたむ

厨くりやにてそつと茶碗を洗う子に涙せしこと母も書き述ぶ

そこには思春期の子供をもつ家庭の縮図があった。両親健在、離婚、病弱、死別など、それぞれが違う家庭環境の中で精一杯に生きる親子の輝きがちりばめられているのである。抱きしめることが言葉のいらぬ最高の愛情表現というが、中学生ともなると親子ともに羞恥心が先立ち、そのことを良しとしない傾向がある。そんな中、互いに言いたくても言えない本音のキャッチボール役を果たしてくれるのが、この「言の葉」というメッセージであり、偉大な効果を発揮することに気付かされる。

子どもたちは、反抗期特有の若者の言葉を発しながらも、反省と後悔を繰り返している。また、親たちも強制的・命令的な言葉を浴びせながらも、結局は言い過ぎを気にしている。いずれにしても、本音では互いのことを思いやり、感謝し、一人の人間として応援しているのである。

親子とは不思議なもので、互いに不快感を与えまいとして遠慮を美德としているかのようである。それが話し言葉の功罪でもあるかもしれない。しかし、そのことを補填し親子の急接近を促す手段が書き言葉によるメッセージではなからうか。

健全な親子の絆を深め、互いの心の琴線に触れ合える家庭を構築していくためにも、この「こころの言の葉」によるキャッチボールを大いに奨励したいものである。

元中学校長

# わたしからの「こころの言の葉」

子から親へ

親から子へ

# こころの言の葉

— あなたに届けたい —

平成17年1月31日発行

発行 鹿児島市教育委員会  
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1  
TEL (099) 227-1941 FAX (099) 227-1923

